

平成28年2月

経営計画発表会

古田土会計の経営計画発表会は創業日である1月11日に行なわれます。今年も会場がお客様618名と社員とで756席が満席となりました。経営計画発表会は、1990年頃から始めました。きっかけは中小企業家同友会江東支部の社長達10数名で経営コンサルタントの一倉定先生の経営計画書作成の勉強会を始めたことにあります。利益計画、資金運用計画等の数字は私が講師になり、経営理念や経営方針の作成は(株)プリントハウス本山の本山社長が講師になり、月々の勉強会の他に合宿もしながら自社の経営計画書を作り、一倉先生の教えるのとおり銀行さんを招待して発表会も行なりました。仲間とすの約束で勉強会の仲間は応援に行く、会費は1万円とするというルールを作りました。経営計画発表会で1万円の会費を頂くのはこのルールを守っているためです。そのうち勉強するのにレジュメでは次回持ってくる人がいるので、経営計画書作成の教科書が必要だということになり、1995年に「経営計画書作成マニュアル」という本を出版しました。ほとんどが一倉先生のパクリなので市販はしてありません。当時15社以上発表会をしておりましたが、社長^{18日でしたか}の死亡、倒産、業績悪化で現在も当時と同じ形で毎年経営計画発表会をしているのは、古田土会計の他に高輪ゲーゼル株株と宝紙業(株)株の2社のみです。2社とも社員のモチベーションが高く成長し続けています。毎年経営計画発表会に出席していますが、20年間毎年社員と社長の成長を感じていて伝えている。当然ですが経営計画書の内容が進化し、銀行さんや招待客が毎年勉強にきていると誉めて頂きます。お客様の発表会には、古田土ないし社員が応援団として出席している。私はまだ1,000社の中小企業に経営計画書を作ってもらいたいと思っています。現在は360社です。作成している会社の81.3%が黒字です。会社の理念や方針を実施するのは社員なので、社員と家族を大切に作る経営、よい社風の会社を創るということを長期事業構想の端上に書き、社員の未来に因ることを中心に発表するようにしています。私の夢は、一社でも多くの会社が経営計画書を作り、経営計画書の基本方針に「社員と家族を幸せにする経営」や「障がい者等の社会的弱者を雇用する」等の世のため、人のために作る経営をするという方針を書いておいて、できることか少しづつ実施して、社長が人々大切に作る経営をすれば、みんなが幸せになれるのではなかろうかと思っています。一倉定先生の言葉に「電信柱が高いのと、郵便ポストが赤いのもみんな社長のせいだ。」というのがあります。社長が変われば、社員が変わり、社風が変わります。社長は自分の社員に対する思いや、経営に対する思いを経営計画書という道具に文章で表現し、発表会で熱意を込めて発表することによって、社長の思いが社員に伝わるのではなかろうかと思っています。

私は来て頂いたお客様に社員が熱く燃えて、5分の社長についての話を聞いてもらえる発表の仕方の参考にされるように意識しました。その結果、「説明が多すぎて講演会みだりすぎる」とアドバイスしてくれた方もいらっしゃいましたが、多くのお客様は「過去最高の発表会だった。経営計画書の内容は、とても勉強になった」と誉めて下さいました。また来賓挨拶してくれた、杉崎社長、櫻井会長、三宅社長。3人のスピーチは感動的でした。多くのお客様が経営計画書の必要性を理解したと思います。坂巻社長の基調講演を聞いて、今迄の講演者で一番よかったですと言ってくれたお客様もいらっしゃいました。